（　石井　通春　議員　２－２）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 令和　２年　　月　　日　　　　　時　　分受理 | | 受付順位 |  |
| 発言順位 |  |
| **発　　言　　通　　告　　書**  　　藤枝市議会議長　　大石　保幸様  　　　　　　　　　　　　　　　　藤枝市議会議員　　　１７番　石井通春　㊞  　　次のとおり通知します。 | | | |
| 発言の種類 | 代表質問　　　一般質問　　　緊急質問 | | |
| １. 標　題 | コロナ第3波に対する積極的な取組  ～無症状者への検査拡大を～  　　　　　　　　　　　答弁を求める者（　市　長　） | | |
| 11月中旬から全国的な急速な感染拡大は7~8月に続く第3波が襲ってきたと考えるべきであり、冬場のインフルエンザの流行と重なるこの時期に改めての対策が求められている。9月議会に続く質問であるが、新たなステージに突入する現在の状況に基づいて、お答えを願いたい。   1. この状況での新たな対策は「従来の対策の延長線上にない」取組が求められていると考えるが認識はどうか。 2. 人の往来を加速するGOTOキャンペーンは、感染をさらに拡大させている。コロナ禍で苦境する市内中小業者への支援は必要だが、今後は独自の上乗せで等はなく給付や所得補償など直接支援する方式に切り替えていくべきではないか。 3. 日本共産党藤枝市議団が実施した住民アンケートの寄せられた声の多くは、PCR検査を受けて安心して生活したいというものであった。   現在、医療機関等の行政検査は有症者を対象としているが、市内民間機関が実施している検査は無症状者であっても一日120件程度の検査を実施しているが自己負担が大きい。住民の声に応え検査を受けるべく助成をする必要があるのではないか。   1. 11月13日の全員協議会で、限定的だが介護施設職員に対する無症状者への検査実施へ検討中との発表があり前進と捉えている。感染者の4割が無症状者からの感染と言われる中、医療機関、保育所、学童保育、学校などリスクの高いところへ定期的な検査を行っていくべきではないか。 | | | |